

[ライブ・サーティー]

Live30

<http://www.omichikai.or.jp>

VOL.

226

2018年
1月-2月



(表紙写真はいぬ年生まれの職員)

TOP MESSAGE

ごあいさつ 大道道大 (社会医療法人 大道会 理事長)

CLOSE UP

地域に根ざし、安心・安全で信頼と納得の得られる医療サービスを

森之宮病院が3度目の病院機能評価認定を更新しました

OMICHI ACADEMY

Neuroscience 2017

第45回 日本歯科麻酔学会総会・学術集会

OMICHI SCRAMBLE

森之宮病院 登録医紹介 ただ今奮闘中！

INFORMATION

森之宮病院で乳がんについて知ろう！ピンクリボンwith森之宮病院 入職医師のご紹介



最優秀賞
「Live30」
施設は常に改善を怠りません。常に最良の医療を提供し、患者様の健康と安全を最優先に考え、日々研鑽を怠りません。
日本赤十字社

ごあいさつ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

社会医療法人 大道会 理事長
森之宮病院 院長
大道 道大



昨年は、2010年から始まった管理職研修の一つの区切りとして、第67回日本病院学会でシンポジウムを開催しました。「組織の課題解決スキルを高める仕組み」と題し、宮井副理事長と法人内の課題解決ワークショップの講師であるトレーナー等11名が、課題解決型管理職の育成ノウハウを紹介しました。ソフトバンクロボティクスの感情認識ヒューマノイドロボット「Pepper」との会話や会議風景の寸劇等、楽しみながら現場に取り入れやすいよう構成しました。また、日経BP社より社会医療法人大道会の著書『医療・介護現場の課題解決型リーダー育成メソッド』が出版されました。研修で使われている様々な論理的思考ツールの解説やそれらのツールを用いた課題解決の実例の紹介等、大道会流の課題解決のエッセンスが盛り込まれています。多くの医療・介護・福祉関係者の皆様にご活用頂ければ幸いです。

一方、医療・介護・福祉分野における動向に関しては、団塊世代全員が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて改革が進められています。今年は診療報酬・介護報酬の同時改定に加えて、第7次医療計画や第7次介護保険事業計画、新専門医制度、データヘルス構想等、様々な施策の見直しが行われます。いよいよ2025年を見据えた医療・介護提供体制の構築が本格的に始まります。

法人内では昨年7月に、ボバース記念病院が開院35周年を迎えることができました。ボバース記念病院はこれまで地域医療や回復期リハビリテーションを担ってきましたが、今年10月に、乳児から成人まで継続した脳性まひ診療を可能にする新たな機能に特化した病院へと生まれ変わります。当法人では小児障がい児の患者さんを数多く診察し、経験・ノウハウを蓄積してきました。その私達だからこそできる、民間ならではの

の新しいボバース記念病院をめざし、社会医療法人として地域、ひいては日本に貢献する医療を提供していきます。

また、地域包括ケアシステムの構築には、地域の中核病院である森之宮病院が先駆けて取り組んでいます。地域ごとに抱える課題は異なり、人口構成や高齢化のスピード、医療機関や介護事業者の数も様々です。したがって、私達は城東区でしかできない地域包括ケアシステムを作り上げていく必要があります。当法人はこれまで2015年11月に森之宮病院が大阪市城東区・UR都市機構と締結した「森之宮地域におけるスマートエイジング・シティの理念を踏まえたまちづくり協定」に基づき、2016年1月に森之宮第2団地に全国初の「在宅療養・介護・リハビリモデルルーム」を開設しました。また、「熱中症予防セミナー」や「森之宮病院10周年記念イベント・オープンホスピタル」を実施し、昨年は「食べる楽しみをいつまでも」をテーマに講演会・試食会を開催する等、行政との連携を強めてきました。今後も更に、地域住民・医療機関・行政との関わり合いを深め、2020年までに地域の実情に合わせた医療・介護・福祉を一体的に提供できるシステムを構築していきます。

これからますますヘルスケア分野が複雑化する中で、「2025年問題」だけを見るのではなく、その先のあらゆる可能性を立体的に予測し、方向性を決めていかなければなりません。それに向けて、各施設の機能強化を図りながら、地域の様々な団体と連携して、支援を広めていきたいと考えています。

これからも「私達が提供できる医療・介護・福祉」、「私達が挑戦したい医療・介護・福祉」、「患者・利用者さんから求められている医療・介護・福祉」の3つの視点を大切に、地域医療を発展させる体制を整えてまいります。

地域に根ざし、安心・安全で信頼と納得の得られる医療サービスを

森之宮病院が3度目の病院機能評価認定を更新しました



合同面接のようす



部署訪問(事務)



本番に向けてエイエイオー！

病院機能評価とは、日本医療機能評価機構が病院の質改善活動の支援を目的として、4つの評価対象領域から構成される評価項目を用いて、病院組織

全体の運営管理および提供される医療について中立的、科学的、専門的な見地から評価を行うものです。更新は5年毎で、その間に期中評価と称した中間評価が実施されます。2017年10月現在、全国8439病院中2179施設が認定を取得しており、森之宮病院も2017年9月に3度目の病院機能評価を受審し、無事認定されました。

今回は、その際の各部の取り組みの様子をご紹介します。

(森之宮病院診療部医療安全管理室主幹 竹下誠二)

大沢部長 (7階東ケアプロセス)

7階東病棟がケアプロセス調査の対象となりました。典型症例の診療内容について質問され、今回は大腸癌症例を選びました。実際のケアの流れに沿った質問に担当者が回答していくのですが、質問はほぼ想定通りで、主治医以外のスタッフの活躍が非常に印象的な審査でした。今回は、①カンファレンスの記録、②パスの実施例、③輸血後の感染症チェック体制等、チーム医療、医療

安全対策の遵守状況が厳しく問われました。改善点を指摘され、今後の指針となりました。

畠中医長 (本体・付加機能・合同面接・ケアプロセス)

リハビリ病棟ケアプロセス、回復期リハビリ病棟付加機能、委員会部門等に関わる機会を頂きました。前回の受審時に整理し定着したと思っていた組織内の協働体制や基本的な仕組みにも思いがけない脆弱さが露呈し、基本的に立ち返って課題を抽出する必要がありました。解決には問題意識や動機付けが大切であり、多職種が意識を高め合わない目標到達できない難しさも感じました。受審はすでに過去であり、各職種の専門素養を磨きつつ、日々の患者サービスに謙虚に取り組み続ける姿勢が大切だと思いました。

柴田副部長 (合同面接・付加機能・その他部門) 看護全般

私は、本体・付加機能で、資料準備や事前調査票の作成、合同面接・病棟概要説明・ケアプロセス担当病棟として関わりました。前回の受審で、看護介護の役割の明確化と専門性の発揮が不十分であるとの課題を残しました。今回は課題に対しての取り組みのアピール

と、看護部全体が安全な医療・看護の提供に基づきマニュアルの見直しや業務改善を繰り返しながら、質の向上に繋げている事を伝えていきました。受審結果は、期待と不安感で一杯ですが、職員全員で取り組み、目標を共有できたことは私達の宝になりました。今後は、更なる質の向上に努め、5年後に向けて進化していきたいと思っています。



7階西病棟の概要を説明する柴田副部長

池田科長

（7階東ケアプロセス）
病棟の特徴を踏まえて

今回、一般病院2（副）のケアプロ担当でしたが、病棟には機能評価受審経験者が誰もいない状態での発進でした。まず、科長・主任がビデオ学習、前回の資料や副部長からの助言、担当となる大沢医師と患者さん設定、スタッフへの指導を行いながら、マニュアルに沿った記録やカンファレンスを実施しました。当てはまらない項目では他の患者さんで倫理や終末期カンファレンスを実施し、環境整備では、7西と共有部分が多いため調整を行いました。予行演習での助言を受け対応練習

を数回行い、迎えた当日はチーム医療の連携とともに各部署のアピールも加え、和やかな雰囲気でした。まだまだ改善点もありますが、質の向上とともに、スタッフの団結力を知る良い機会となりました。

坂本科長

（3階ケアプロセス）
病棟の特徴を踏まえて

毎回、3階病棟はケアプロセスの病棟を担当しています。前回はシステムや連携、記録に苦労したので、今回は前回苦労したことを生かし、準備、対応ができました。マニュアル、記録関係は不十分な点もありましたが、準備段階からケアプロセスの患者さんの記録の内容は他職種と確認しあい、北井医師のリーダーシップの下、アピールできる内容になりました。本来、このような記録がケアプロセスの症例のみでなく全員ができるよう、今後は指導していかねければと痛感しました。

椎名部長

（本体リハ付加機能）
リハ全般

リハビリテーション部では、付加機能の部分で若手管理職に準備を任せ、業務内容を見直す良い機会になりました。業務プロセスでは屋外歩行訓練の安全管理用バッグ、業者による機器の定期メンテナンス等、新規に整備できたものもありました。7西スタッフはケアプロの準備のために連日ディスカッションを続け、徹底して考え抜く作業を行いました。このような経験は、今

後、他のスタッフに還元されていくものと思います。受審の結果、高い評価を頂いた部分と、リハ記録の問題等、指摘していただいた点がありました。リハ目標やプログラムの継時的変化が分かる一覧化、カンファレンス結果のプログラムへの反映等、後期の業務の中で改善していく予定です。

田中部長

（2日目部署訪問）
診療部5科まとめて

診療技術部の5科は、同じ医療職でありながら専門職としての業務が全く違い、各科書類が膨大な量になりました。私としては、それぞれの責任者にプレッシャーを与えながらフォローしたつもりでしたが、酷い上司だと思われるに違いないと思います。ただ、無事に終わることができホッとしています。今回作成した資料等については、無駄にすることなく業務に生かしていきたい、後輩達に受け継いでいかねばならないと考えます。最後に、関係各部署にご協力を頂き、誠に有難うございました。

藤井課長

（合同面接、部署訪問）

本体（合同面接・ケアプロ3病棟）、付加（合同面接・ケアプロ）を担当しました。多数の資料準備や当日の審査を通して、SW機能が病院機能に広く関わっていることを再認識しました。本体の部署訪問では、SW記録やSVシート等、当課こだわりの運用を細かく見て頂けて嬉しく思いました。合同面接や

各ケアプロ審査では、担当者が皆、伸び伸びと普段の実践を伝えることができ、ほっとしました。

杉浦課長

（部署訪問）

地域医療連携室は「地域への情報発信と連携」について医療相談室と担当しました。部署訪問では、仕事の内容に関することから、地連と相談室はパートナーを挟んでおり、実は仲が悪いのでは？という不仲説まで質問されましたが、藤井課長と二人でチームワークよく対応できました。サーベイヤーの方が「もっと他に資料は？」とおっしゃったので、あれもこれもと長時間にわたり資料を見て頂き、自分達の業務を最大限にアピールすることができました。

より一層の業務改善に向けて

多くの職員の努力の結果、今回の更新審査でも思った以上に高い評価を受けました。特にS（優れている）評価は本体審査で109項目中18項目、付加機能（回リハ）で48項目中8項目あり、チーム医療や地域連携、教育、研究等、我々が注力してきた分野でした。重要なことは、受審を通じて改善に対するモチベーションと行動を持続することです。業務が改善すれば、医療の過程が円滑となり、やる気が上がり、ストレスも減ります。今後このような好循環を生み出していきたいと考えています。（森之宮病院院長代理 宮井一郎）

発表報告

Neuroscience 2017



森之宮病院診療部
神経内科
河野 悌司

**実臨床に根ざした研究として、
将来的な臨床応用を目指したい**

日程：平成29年11月11日～15日
場所：ワシントンDC

本学会は神経科学領域最大の学会で、今回は80カ国から3万21人の研究者が参加し、1万3552件の発表が行われました。

今回、私は「Electroencephalogram phase synchrony reflects the clinical status of the post stroke aphasia (脳波位相同期は脳卒中後の失語症の臨床像を反映する)」という演題でポスター発表を行いました。この研究は理化学研究所・脳科学総合研究センターとの共同で行っており、回復期脳卒中の患者さんを対象とした脳波による研究を発展させたものです。これまでに脳波位相同期指数 (Phase Synchrony Index: PSI) という指標を用いることで脳卒中回復期の運動麻痺、半側空間無視、日常生活動作等の病態を患者さんに負担をかけることなく評価できることを報告してきましたが、同じ手法が失語症の評価にも応用可能であること見出しました。また、病巣が存在する

左半球だけでなく、右半球の活動も失語症の重症度と関連していることも明らかとなりました。このように様々な病態に適応できるという事実は、PSIが脳卒中回復期の脳活動を反映している指標であることを示しているものと考えています。



会場となったWalter E. ワシントン・コンベンションセンター。ダウンタウンの北にあり、総面積約21万3000㎡の巨大な建物です。



グリーンライフ
療養サービス部療養一科
山下 彰

**リハ効率化が期待される
新しい脊髄可塑性誘導法を研究**

日程：平成29年11月11日～15日
場所：ワシントンDC

今回、私は「Bidirectional paired-

associative synaptic plasticity at spinal motoneurons : 脊髄運動ニューロンでの双方向連合性ペーシナプス可塑性」と題し、一次運動野への経頭蓋磁気刺激と末梢神経電気刺激による反復ペーシ刺激が手の領域を支配する皮質脊髄運動ニューロンのシナプスレベルで生じた学習効果を双方向(促進または抑制)へ変化させる研究を発表しました。セラピストによる運動療法の前に、この新しい脊髄可塑性誘導法によって神経活動を調整しておけば、その後の上肢のリハビリテーションを効率的に行える治療手段となります。今回の発表では、様々な研究者と交流ができたことで、今後の研究に向けても大いに励みとなりました。今後も研究を進め、リハビリテーション医学の発展に貢献できるよう努力していきたいと思えます。

発表報告

第45回 日本歯科 麻酔学会総会・学術集会



ボバース記念病院
歯科診療部歯科医師
猪飼 祥子

**BLS講習会の効果について
ポスター発表を行いました**

日程：平成29年10月14日・15日
場所：長野県・まつもと市民芸術館

日本歯科麻酔学会総会・学術集会

は、歯科麻酔に携わる歯科医師や歯科衛生士等が集まり、日頃の研究や臨床、診療の成果を発表し討論を行っています。今回は「より安全で質の高い麻酔管理を目指して」の学会テーマのもと、様々な講演やシンポジウム、発表が行われました。

私は、「当院における一次救命処置の質的向上の試み」という演題名で、当院歯科スタッフに対して毎年行っているBLS(一次救命処置)講習会の効果についてポスター発表を行いました。質の良いCPR(心肺蘇生法)の要件の一つとされている胸骨圧迫時間の割合(Chest Compression Fraction: CCF)を指標として就業年数や、CPRの一人法、二人法の違いによるCPRの質について調査を行いました。一人法、二人法ともに、経験年数が長くなるにつれCCFは上昇する傾向にあり、経験の浅いスタッフでも講習後半の測定では著しく高値となりました。これらより、講習を通じてBLSの流れを知り、その流れを反復して経験することが技術習得に重要であることが示唆されました。数字として評価を行うことで、インストラクターだけでなく受講者から積極的な意見を出し合う場面も見られ、訓練に対する関心を高めるきっかけになったのではないかと考えます。

実際の現場でCPRを実践する機会に遭遇することは決して多くあり

退院支援が円滑に行えるようになった

発表報告



ボバース記念病院
看護部3階病棟
千崎 星嘉

第19回大阪病院学会
夢のある高齢化社会を
目指して



発表ポスター前で

日程：平成29年11月12日
場所：グランキューブ大阪

ませんが、日頃の訓練をより効果的に行うためにはモチベーションをいかに高め、技術を維持していくかが大切であると改めて認識しました。また、発表に際し、他施設で行われている一次救命講習会の訓練方法や、講習会の頻度の設定等、様々な意見を頂くことができました。

今回の調査結果を今後の講習会や臨床にも生かし、全身的合併症を有する患者さんに対する歯科治療についてさらに研鑽していく所存です。

「病棟看護師として考える他職種・地域との連携」病棟独自の退院支援シートを作成・使用して」と題して発表しました。近年、社会の超高齢化、核家族化に伴い、自宅で家族の協力を得ることが難しいケースが増加しています。また、当院では退院調整に関わる看護師の意識が薄いことで、積極的に退院支援が行えていない現状にあります。そこで、チームで退院調整が行えることを目的にシートを作成しました。シートには「本人・ご家族の退院時の目標」、「主な介護者」、「ケアマネの有無」の他、セラピストに現状と退院までに目標を達成可能かを確認する項目を設け、使用しました。その結果、1週間ごとにADLやリハ状況を確認し、チームで共有でき、退院支援が円滑に行うことができました。この研究を通して、退院に向けての他職種との具体的な連携や動きを見いだすことができた他、情報共有もより深く行うことができました。必要に応じてカンファレンスをセッティングし、退院後の患者さんの生活背景まで考えることができました。

他院の発表演題では、「患者誤認減少を目指して」が興味深いものでした。病院内全てのラウンドを行い定期的にチェックすることや、患者誤認防止のポスター掲示等で、患者

誤認の減少に繋がり、患者さんと医療者が共同で行うことが重要であると感じました。結果として、継続して取り組みを行うことで職員の意識が高まり、行動が変化したと述べていました。また、医療現場では、名前の確認はとても大切であると改めて学びました。

今回の学会で学んだことを生かし、日々の業務に取り組んでいきたいと思っています。



在宅事業部訪問看護
ステーション
東成 おおみち
古城 みゆき

退院前カンファレンスに着目し
事例発表を行いました

日程：平成29年11月12日
場所：グランキューブ大阪

第19回大阪病院学会に参加し、「家に帰ってきて良かった」訪問看護師が参加する退院支援の効果という演題で、退院前カンファレンスに着目した事例発表を行いました。

退院前カンファレンスは病棟から在宅へのシームレスな看護を行うために必要であり、改めて継続看護の重要性を痛感しました。入院中、人工呼吸器管理後、大幅にADLが低下した利用者さんが自宅退院をされました。それを機に、その人らしく過ごすことができるようそれぞれの立場から案を出し合い、退院後は更

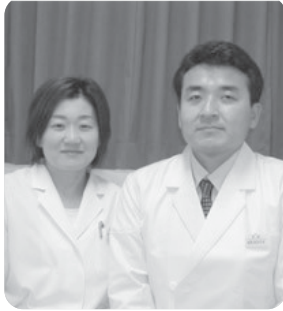
にケアを継続できるようにシンプルにしました。また、在宅医とも連携し薬剤の調整や身体面のフォロー等、ご家族も含めた指導を行いました。そうしたことで自宅生活を送る中、どんなその人らしさを取り戻し、介助で車椅子に乗って散歩に出かけることもできました。担当者会議ではご本人やご家族のみならず、在宅医やケアマネジャー、サービス担当者も「家に帰って来られて良かった」と喜んでいきます。質疑応答では「高齢の利用者さんをみている娘さんも高齢になっていくが、どんな工夫をしているか」という質問がありました。2人のご家族(娘)には介護疲れで倒れないよう、夜の付き添いは交代で行い、ショートステイを利用し気分転換を図って頂いています。日々の訪問では困っていることや疑問に思っていること等を先にご家族にお聞きし、その都度解決に向けて対応していることを伝えました。

退院支援は各自が知恵を出し合い、失われた機能や新しい生活を立て直すための人生の再構築を患者さん、ご家族、他職種と共に考えていかなければなりません。入院中の患者さんが退院後に在宅生活を希望されていけば、それを叶え、「家に帰ってきて良かった」と言って頂けるように支援していきたいと考えています。



森之宮病院 登録医 紹介

26



いけじり内科外科
クリニック

池尻 真康 院長
池尻 礼子 医師

大阪市城東区関目6-7-8
06-6180-1100
内科、外科、胃腸科

池尻院長は、平成7年東京慈恵会医科大学卒業後、日本赤十字社医療センターで研修、東京慈恵会医科大学第1外科に入局。その後、平成18年に城東区と旭区との境界になる国道163号線沿いに、いけじり内科外科クリニックを開設されました。主に消化器疾患、癌緩和医療を専門とされており、午前中のみ併診制で、奥様の礼子先生が糖尿病外来もされています。

現在のように緩和病棟がまだ普及していなかった勤務医時代に、外科病棟の隅で痛みと不安・恐れと向き合っている癌患者さんをみて、最期まで患者さんに寄り添いたいと思い、開業後、在宅診療においても末期癌在宅緩和治療を積極的に行われています。

「なんでも相談できるやさしい医療をめざしています。地域医療として病診、診診連携をしっかりと行い、また、介護職等と多職種協働体制で取り組んでいきます」と話される池尻院長。趣味はゴルフとのことですが、休日も在宅のオンコール対応をされており、地域の方々が住み慣れた城東区で最期まで安心して生活できるようにと、日々診療に取り組まれています。

いけじり内科外科クリニックの院長としてだけでなく、城東区医師会会員としても地域医療を支えて下さり、当院も在宅療養後方支援病院として、より一層、地域医療に貢献していきたいと考えています。
(森之宮病院診療部地域医療連携室 藤野友理香)



頑張っている職員をご紹介します #58

ポバース記念病院歯科診療部
青木 みちる 主任

患者さんのお役に立てるよう
精一杯努めてまいります

ポバース記念病院にて歯科助手、受付をしています。2017年4月より主任に昇進しました。指示や指導することの難しさや責任感の違いを改めて感じています、スタッフ皆の力を借りながら、自らも成長できるよう奮闘中です。

ポバース記念病院歯科診療部では、障害者歯科・小児歯科・口腔外科、在宅訪問歯科診療、介護老人保健施設グリーンライフへの往診・口腔ケア、全身麻酔下歯科治療、入院患者の治療等、さまざまな業務を行っています。その為、他部署の方との連携が必要であり、歯科の窓口となれるよう日々精進しています。

歯科受診に対して、不安や恐怖心を抱く患者さんは少なくありません。子どもからお年寄りまで様々な年代の患者さんが来院されるため、受付にて少しでも安心感を与えられように話し方や声のトーンを意識しながら業務にあたっています。患者サービス向上の為、接客セミナーを受講したり、歯科内で勉強会等を実施したりしています。

歯科業界は常に進歩しているため、日々情報収集をしながら、選ばれる病院歯科になる為、奮闘しています。今後も患者サービス向上を意識しながら精進していきたいです。



青木みちる主任

■ 森之宮病院で乳がんについて知ろう！ピンクリボンwith森之宮病院

毎年10月は、乳がんのことを知って頂くピンクリボン月間です。昨年は、10月15日(日)に森之宮病院で初めてピンクリボンイベントを開催しました。乳腺専門医の講座、ブレストカウンセラーによる下着相談、乳房モデルを使った触診体験、アロマハンドマッサージ等を行いました。当日は雨にもかかわらず、地域の様々な方々にご参加頂きました。

今後もこのような活動を通じて乳がんに関する啓発を行っていきたいと思います。
(森之宮病院看護部外来 梅田真紀)



無事にイベントを終えることができました

■ 入職医師のご紹介

森之宮病院に2名の医師が新たに着任しました。小児整形外科には、昨年7月より松山元昭医師が、続いて9月より心臓血管センター循環器内科に、山上将央医師が入職し、新体制で診療を行っています。今後とも、患者さんに寄り添った医療提供を心がけて参ります。受診をご希望の際は、森之宮病院にお気軽にご相談下さい。



松山 元昭 医師
(小児整形外科)



山上 将央 医師
(循環器内科)

■ ご寄付・ご寄贈を頂きました

井内廣樹様(奈良県)よりご寄付・ご寄贈を頂きました。ありがとうございます。有意義に活用させていただきます。

■ 編集後記

あけましておめでとうございます。新たな年の幕開けです。気持ちを新たに、自分なりにどんな1年にしたいかを思い描き、健康に気を付けて過ごしていきたいと思います。皆様にとっても良い年になりますように。

(ボバース記念病院診療部医療社会事業課 稲葉明子)

Live30【ライブ・サーター】
2018年1-2月号
vol.226〈隔月発行〉

編集発行人／社会医療法人大道会
〒536-0023 大阪市城東区東中浜1-5-1
TEL. 06(6962)9621
FAX. 06(6963)2233

● 本法人の経営理念

1. 社会から信頼される病院・施設づくり
2. 安定した経営基盤の確立
3. 職員の福祉向上と人材育成

● 職員行動モットー

- 親切丁寧に(受診者・お客様・ご利用者)
待たさない／よく説明する／連携する

■ 社会医療法人大道会

社会医療法人大道会本部

☎06(6962)9621

森之宮病院

☎06(6969)0111

ボバース記念病院

☎06(6962)3131

森之宮クリニック(PET 画像診断センター)

☎06(6981)9600

帝国ホテルクリニック(人間ドック)

☎06(6881)4000

大道クリニック(人工透析)

☎06(6961)5151

介護老人保健施設グリーンライフ

☎06(6965)0666

訪問看護ステーションおおみち

☎06(6967)1123

訪問看護ステーション東成おおみち

☎06(6977)8680

ケアプランセンター城東おおみち

☎06(6964)5285

ケアプランセンター東成おおみち

☎06(4259)5311

東中浜ケアプランセンター

☎06(6962)3777

レンタルケアおおみち

☎06(6967)6250

■ 社会福祉法人山水学園

特別養護老人ホームサンローズオオサカ

☎06(6974)7388

東成山水学園(保育園)

☎06(6974)7377